

平成一七年九月六日（火）

第三四四回史跡めぐり

遣唐使と唐の美術展

遣唐使・井真成の墓誌

上野公園周辺と岩崎邸

NPO法人越谷市郷土研究会

広重画「東都各所上野東叡山全図」



第三四四回史跡めぐり(半日コース)

遣唐使と唐の美術展

遣唐使・井真成の墓誌

上野公園周辺と岩崎邸

日時 平成十七年九月六日(火)

集合 越谷駅東口 午前八時半

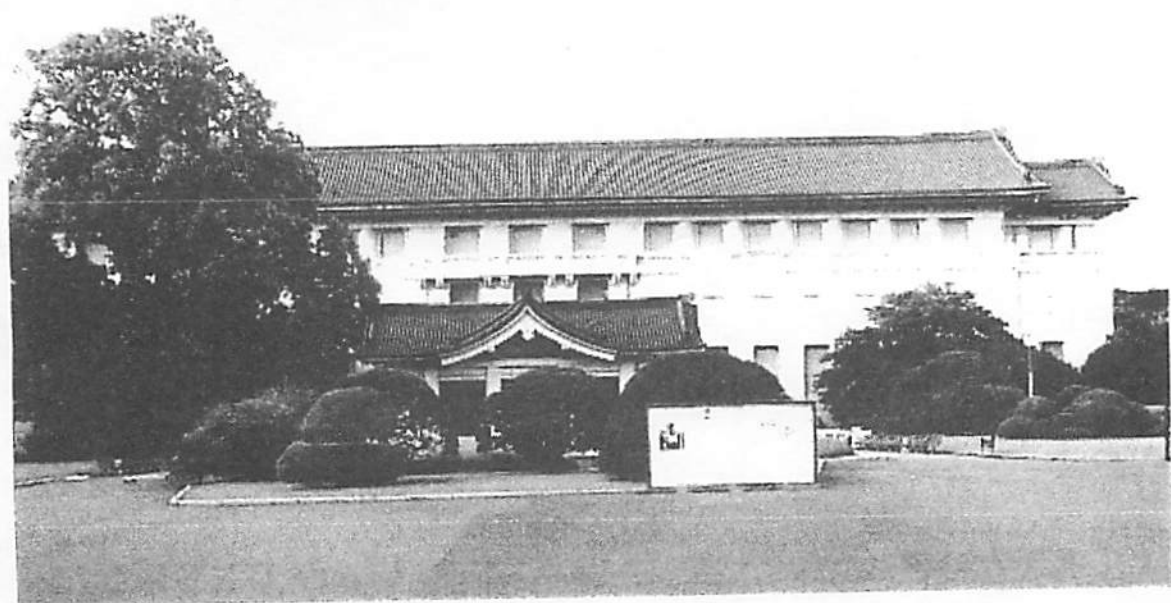
コース 越谷 日比谷線 上野 …… 東京国立博物館

…………… 上野東照宮 …… 不忍池 ……

岩崎邸 (解散)

参加費 二千元(交通費・入館料・資料代・保険料他)

案内者 幹事 藪 高道



●上野の地名

上野は上野台と呼ばれる洪積層の台地で、大昔、上野台は奥東京湾に突出した岬でした。不忍池は入江で、海から池になったのは平安時代頃だと推察されています。地名の上野が文献に登場するのは小田原北条時代（室町時代後期、安土桃山時代）です。地名の由来にはいろいろな説がありますが「上が野になった山」というのが有力なようです。

●上野の歴史

上野の開発は江戸幕府政權が樹立された寛永二年（一六三五）に寛永寺が建てられたことから始まり、三代將軍家光は江戸城の良の鬼門を鎮護するために將軍家の信任が厚かった天海僧正に命じて寛永寺（天台宗）を建立させた。寛永寺の山号は東叡山で、「東の叡山」という意味で命名された。その後、上野は寛永寺の門前町として江戸時代に大いに発展した。明治時代になると上野山内は公園として指定され、明治から昭和初年にかけて内国勸業博覧会等が開かれ、文化の中心と呼ぶにふさわしい街となり、また明治十六年の上野駅開業で上野は北国からのターミナルとして賑わいました。



▲現在の寛永寺



▲旧寛永寺五重塔





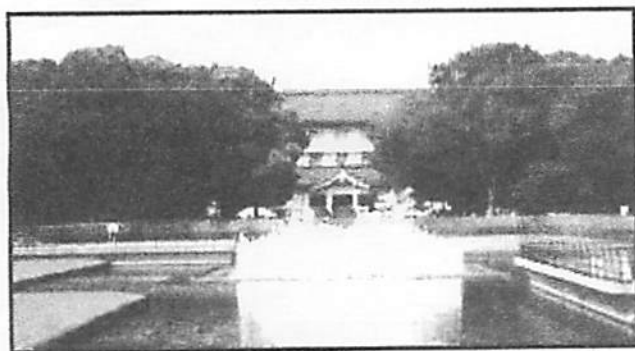
▲ボードワン博士像



彰義隊の墓



西郷隆盛



東京国立博物館

●上野公園のはじまり
上野の公園は正式には上野恩賜公園といい、明治六年に芝(三緑山増上寺)・飛鳥山・浅草(金竜山浅草寺)・深川(富岡八幡宮)・上野(東叡山寛永寺)の計五ヶ所が最初の公園として指定されました。この地は江戸時代には寛永寺の境内でしたが、戊辰戦争(上野戦争)で官軍の砲火により焼失し、明治維新以降は焼け野原となり放置された。戊辰戦争(上野戦争)でなっていた。そのころ長崎の医学学校の教師でオランダの一等軍医だったボードワン博士が大学病院建設予定地視察のために上野の山にやってきた。視察を終えたボードワン博士は、病院の建設を取り止め、「かかる景勝閑雅な由緒ある地はよろしく西欧都市の例にならなくて公園とすべき」と忠告し、彼の言葉が聞き入れられ、敷地約六十二万平方メートルの大きな公園になりました。

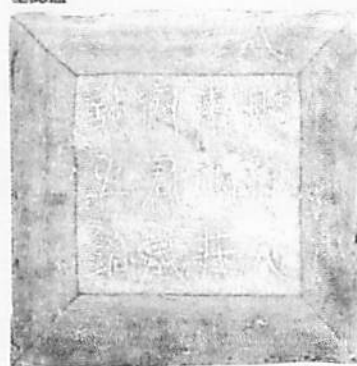


●遺唐使と井真成

遺唐使は七世紀から九世紀にかけて、前後十六回ほどにわたって朝廷が唐へ派遣した一種の国際使節団です。この遺唐使の働きにより、政治、経済、宗教、思想、技術など、多方面にわたって唐王朝から多くのことを吸収し、古代日本の礎が築かれていきました。しかし、この遺唐使の実態となると、人員構成や旅程をはじめ、不明な点も多く、また、唐において具体的にどのような活動をしたのか、その詳細はあまりはっきりとつかめていません。

1 井真成墓誌 拓本
唐時代・開元22年(734)
西北大学蔵
遺唐使・井真成の経歴などが直方体の石の表面に刻まれている

墓誌題



墓誌銘文

贈尚衣奉御井公墓誌文并序
公姓井字真成國号日本才稱天縱故能
衛命遠邦馳聘上國禮崇衣冠東帶
朝難与傳矣豈國強學不倦問道未終
遇移舟臨達奔馳以開元廿二年正月
日乃終于官第春秋用六 皇上
傷追崇有典 詔贈尚衣奉御并令官
即以某年二月四日窆于万年縣灤水
東原礼也嗚呼素車晚引月幾行哀嘆遠
分難暮日指窮鄉兮悲夜台其辭曰
一乃天常哀茲遠方形既埋於異土魂庶
歸於故鄉

（*旧字は現代字に置き換えてある）

墓誌蓋銘文

墓誌



（尚衣奉御を追贈された井公の墓誌の文序と并せる）
公は姓は井、通稱は真成。国は日本と
いい、才は生まれながらに優れていた。
た。それで命を受けて遠国へ派遣さ
れ、上国・中国に馬を走らせ訪れた。
中国の礼儀教養を身につけ、中国の
風俗に同化した。役人になり、正装し
て朝廷に立つたなら、並ぶものはない
か。たに違いない。だから誰が予想
しただろう、よく勉強し、まだそれを
成し遂げないのに、思ひもかけず突
然に死ぬとは。開元二十二年（七三四）
正月四日に官舎で亡くなった。年齢
は三十六歳。皇帝（玄宗）はこれを傷
み、しきたりに開けて榮譽を称え、詔
勅によって尚衣奉御の官職を贈り、
葬儀は官でとり行わせた。その年二
月四日に万年縣の灤水の東の原に葬
った。礼に基づいてである。ああ、夜
明けに柩をのせた素木の車を引いて
ゆき、葬列は赤いのはりを立てて哀
悼の意を表した。真成は、遠い国にい
ることをなげきながら、夕暮れに倒
れ、荒れはてた郊外におもひいて、墓
で悲しんでいる。その言葉にいうに
は、「死ぬことは天の常道だが、哀し
いのは遠方であることだ。身体はも
う異国に埋められたが、魂は故郷に
帰ることを願っている。」

ところ、去年、唐王朝の都が置かれた西安市で、遣唐使の一員と見られる人物の墓誌が発見され、大きな注目を集めました。それが今回の展覧会の核となる、井真成（せいしんせい）の墓の意（まな）にも生前の経歴などを石に刻んで遺体と一緒に納めた副葬品の一種です。井真成の墓誌を見ると、日本で生まれ、唐に学ぶために派遣されて来たこと、将来を嘱望されながら、官職を追贈されたこと、長安（西安市）東郊さん河の脇に埋葬されたことなど、井真成という遣唐使の実態につながる具体的な事柄が記されています。井真成といふ名は、日本の史書にも記載がなく、いったい誰を指しているのか、いまはまだ判然としませんが、年齢から推測すると、養老元年（七一七）、あの有名な阿倍仲麻呂や吉備真備、玄昉らとともに、遣唐使の一員として唐へ渡ったものと考えられます。このように井真成の墓誌は、唐における遣唐使の生の姿に触れたはじめての第一級資料であり、これを手がかりとして、今後、井真成や遣唐使をめぐる諸問題に新たな光が当てられることになるでしょう。

●上野東照宮（重要文化財）

藤堂高虎は上野山の中に、徳川家康を追慕し、家康を祭神とする宮祠を造った。これが上野東照宮の創建といわれている。あるいは、寛永四年（一六二七）、宮祠を造営したのが創建という。正保三年（一六四六）、朝廷は家康に「東照宮」の宮号を贈り、それ以後、家康を祭る御宮を東照宮と呼ぶようになった。江戸城紅葉山にも東照宮が造営されたが、特に一般市民にも参詣できるようなとの配慮から、浅草寺境内に浅草東照宮が造営されてもいたが寛永十九年（一六四二）焼失したため、慶安四年（一六五一）上野東照宮建立が家光によって進められ、現在の社殿（一六五）上野東照宮として新たに建立されたのが現在の社殿で、その後数回、修理を加え、現在に至る。社殿の構造は、前からは拝殿・幣殿（石の間ともいう）、本殿からなり、その様式を権現造りという。社殿は東京都内でも代表的な、江戸時代初期



の権現造り。華麗莊嚴を極め、金色堂とも呼ぶ。
本殿・拝殿・幣殿は、唐門・透塀とともに構造・様式がすぐれ、貴重であるので、国の重要文化財に指定されている。

●銅燈籠（重要文化財）

上野東照宮社殿唐門前と参道に、五十基の銅燈籠が並んでいる。燈籠は神事・法会を執行するときの淨火を目的とするもの。照明器具ではない。燈籠は上部から、宝珠・笠・火袋・中台・竿・基壇で構成されている。火袋は、八角・六角・四角などの形式に分かれ、各面には火口・円窓という窓を設けている。火袋下部の長い部分を竿といい、ここに銘文を刻むことが多い。これらの銅燈籠は、諸国の大名が東照大権現靈前に奉納したもの。竿の部分には、寄進した大名の姓名と官職名・奉納年月日等が刻字されている。伊勢国津藩主藤堂高虎奉納の寛永五年（一六二八）銘一基をはじめ、慶安四年（一六五五）正月十七日奉獻二基、同年四月十七日奉獻四十五基、同五年孟夏十七日奉獻二基となっている。慶安四年四月十七日は東照宮社殿落成の日。その日の奉獻が最も多い。これら銅燈籠は、東照宮社殿とともに一括して、国の重要文化財に指定されている。

●お化け燈籠

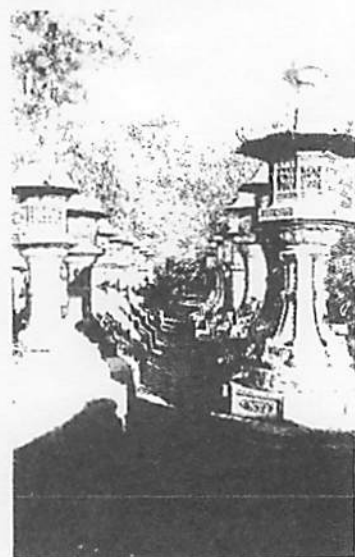
佐久間大膳亮勝之が東照宮に寄進した石造の燈籠で、

奉寄進佐久間大膳亮平朝臣勝之

東照大権現御宝前石燈籠

寛永八年辛未孟冬十七日

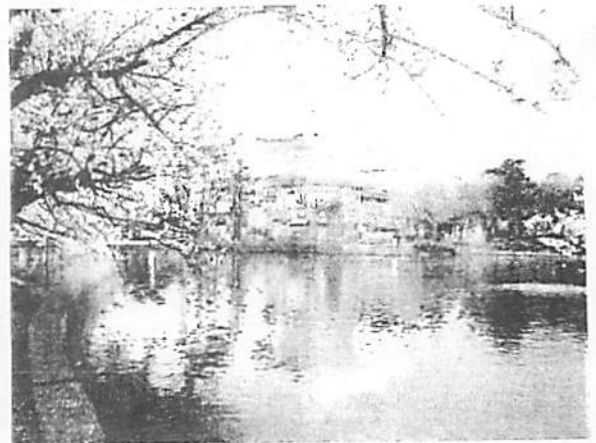
と刻字し、寄進者・寄進年月を知ることが出来る。寛永八年（一六三一）当時、東照宮は創建して間もなく、社頭に



は、現存の大鳥居・銅燈籠・石燈籠などは、まだわずかしかな奉納されていなかった。勝之は他にさきがけて、この燈籠を寄進したのである。勝之は、織田信長の武将佐久間盛次の四男。母は猛将柴田勝家の姉という。信長・北条氏政・豊臣秀吉、のち徳川家康に仕え、信濃国川中島ほかで一万八千石を領した。燈籠の大きさは、高さ六・六米、笠石の周囲三・六三米と巨大で、その大きさが故に「お化け燈籠」とよぶ。京都南禅寺・名古屋熱田神宮の大燈籠とともに、日本三大燈籠に数えられる。

●弁天堂

寛永二年（一六二五）天海僧正は、比叡山延暦寺にならない、上野台地に東叡山寛永寺を創建した。不忍池は、琵琶湖に見立てられ、竹生島に因んで、常陸国下館城主水谷（みずのや）勝隆が池中に中之島（弁天堂）を築き、さらに竹生島の宝厳寺の大弁財天を勧請し、弁天堂を建立した。同時に水谷勝隆は自分の下屋敷邸内の池にも屋敷神として、弁財天をお祀りした。いわゆる姉妹弁天とし、西方にあたる不忍池の弁財天を夕日、東方にあたる水の谷の弁財天を朝日弁財天と称したが、大正十二年の関東大震災で罹災し池と共に烏有に帰した。当初弁天堂へは小舟で渡っていたが、寛文年間（一六六一〜七二）に石橋が架けられて、自由に往来できるようになり、弁天堂は弁財天に参詣する人々や行楽の人々で賑わった。弁天堂は、昭和二十年の空襲で焼失し、昭和三十三年九月に再建された。弁天堂本尊は、慈覚大師の作と伝えられる八臂の大弁財天、脇士は毘沙門天、大黒天である。本堂天井には、児玉希望画伯による「金竜」の図が画かれていある。また、本堂前、手水鉢の天井に、天保三年（一八三二）と銘のある谷文晁による「水墨の龍」を見ることが出来る。

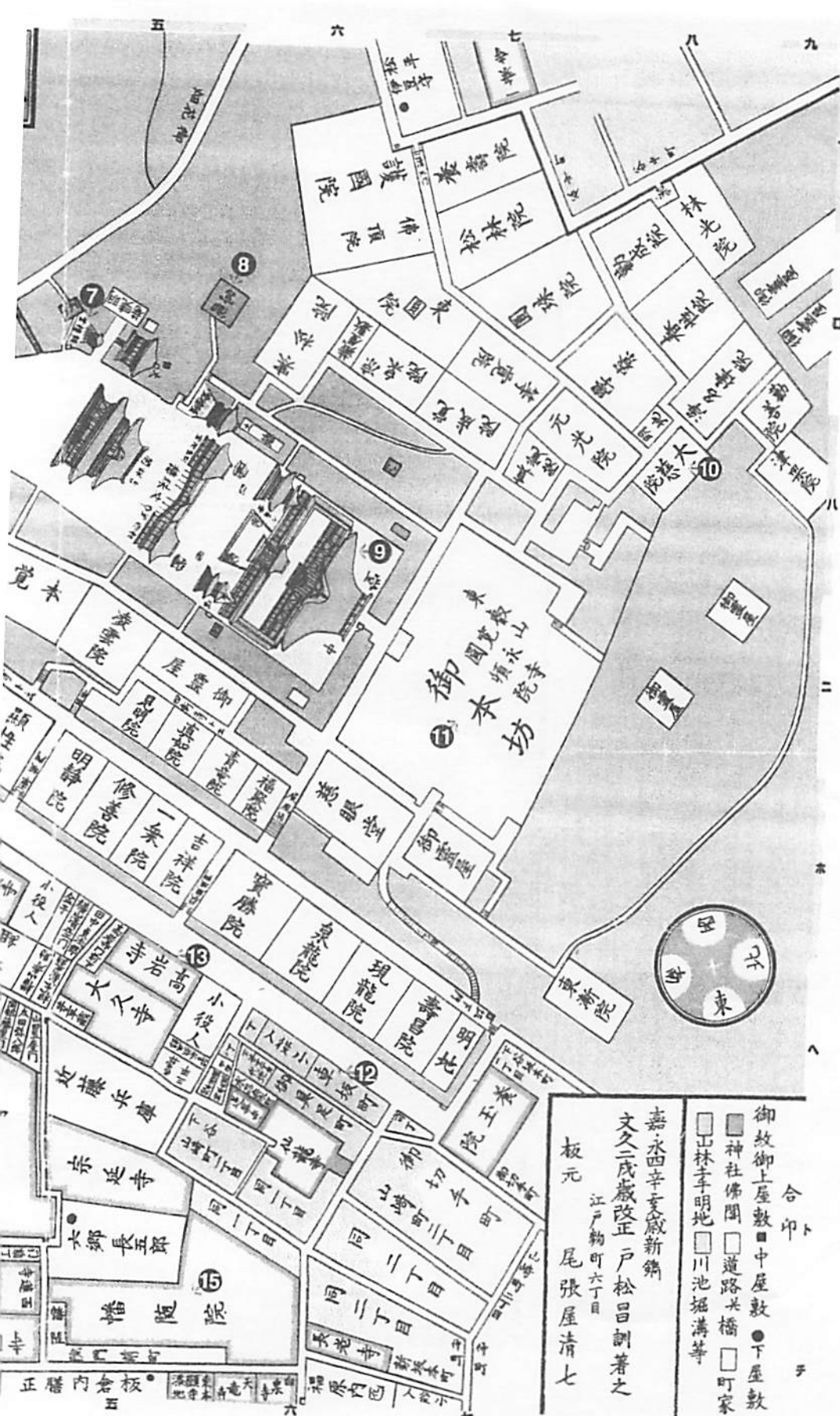


東都下谷絵図

15-2 東都下谷絵図



15-1 東都下谷絵図



合印
御紋御上屋敷 中屋敷 ● 下屋敷
■ 神社佛閣 □ 道路 橋 □ 町家
□ 山林 寺明地 □ 川池 堀溝 等

嘉永四辛亥歲新納
文久二戊辰歲改正 戸松昌訓著之
板元 尾張屋清七
江戸物町六丁目

しのぼず"自然観察会





清水坂

女
上野高校

護国院
谷中七福神のひと
大黒天

抹茶がのめる
和菓子のお店
・村に林堂

真赤に紅葉する
ハゼの葉を通り
日差しが
赤いかに美しい

東京最古の赤いおの建物
(旧教育博物館書庫)

寛永寺

五重塔

動物園と東照宮の
不思議な境界線

上野動物園

東園
正門
0000

東京都
美術館

音楽堂

市民の力で復活した
最古の木造音楽ホール

京成
博物館
動物園駅

国立文化財研究所

・旧田沼池田屋敷表門

東谷門

待望屋

東谷門

寛永寺
霊園

↑全日葛里駅

東京
国立博物館

ユリノキの大木

ミツバチ
シンボル
辛子

東洋館

ユリノキ

国立西洋
美術館

国立科学
博物館

上野公園案内所
カエデラスミ
みじりのリス像

緑の相談所

ソウダがある、2と休みに
きれいなトイレもあるーよい

もとは山下にあった
戦後復興の
シンボル

日本
会館
・砲

西大寺
軍王寺
寛永寺旧本坊表門

忍園中学

東京文化
会館

公園口

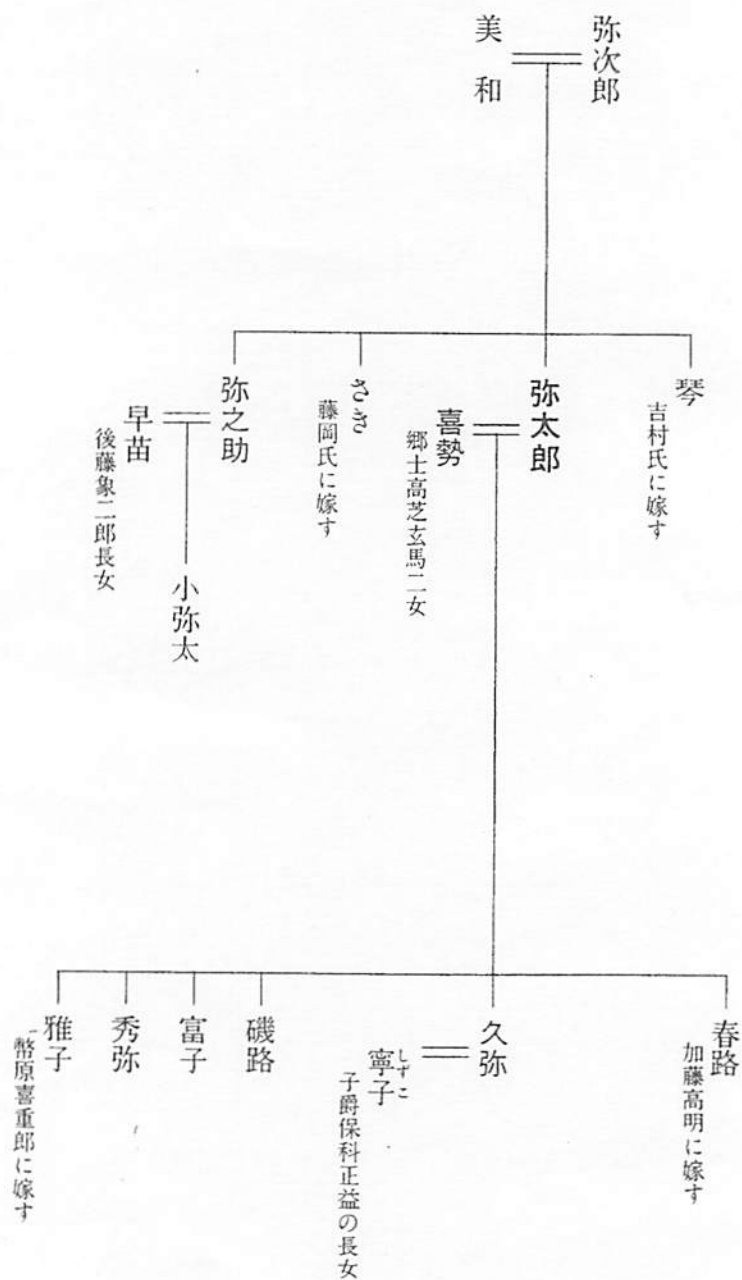
宇野駅

(P)

(P)

後

岩崎家略系図



参考資料

東京国立博物館ニュース

東京国立博物館広報室

台東名所図会史跡説明板ガイドブック

台東区教育委員会

下谷浅草の歴史散歩

台東区芸術・歴史協会
台東区立下町民俗館

ほか